



相良知安 (1836-1906年)

 事

消息

「相良知安先生記念碑」(東大附属病院構内) 移転を慶ぶ

相良 隆弘

郷土佐賀出身で明治初期、我が国へドイツ医学を導入し、第一大学区医学校長(現在の東大医学部)として、近代医学制度確立に貢献した佐賀藩医相良知安(一八三六年〜一九〇六年)は、筆者の四代前の先祖にあたります。

日本医学界の先覚者である知安の功績を顕彰する気運が、在京県人の医師から高まり、昭和十年に記念碑建設募金が、全国の医師等を対象に始められました。

発起人には、大隈信幸侯爵、鍋島直映男爵・武藤元帥・眞崎大将ら佐賀県出身者、及び親友の石黒忠貞博士や長与東大総長・入澤達吉東大名誉教授・女医の吉岡弥生など百余名が名を連ね、建設費は三千円でした。場所は、東京帝国大学医学部構内の池之端門側の、上野不忍池を臨む高台に建立されました。

知安は上野公園一帯を医学校と病院にする構想を抱いてましたが、恩師ポードウィンの「照葉樹林のすばらしさに、公園として残すように」との助言から、代替地を旧加賀藩屋敷跡である、現在の本郷キャンパスに決まりました。しかし七十二年後の現在の記念碑は、周辺に看護宿舍や医学部の建物が次々に建設され、人目に付かない樹木に隠れる場所となりました。

過去に郷土佐賀から記念碑を見学に来た人達は、「東大構内の記念碑を探したが見つからず、学生や職員に聞いても誰も知らなかった」と嘆いていました。東大医学部・附属病院は、平成二十年に創立百五十年を迎えます。東大医学部の創立は、安政五(一八五八)年に幕府「種痘所」が、東京神田お玉ヶ池に設置された年とされています。東大は、過去節目の記念の年には、記念行事を実施しています。知安の子孫及び記念碑の現状を杞憂する関係者が、記念事業としては是非、



「相良知安先生記念碑」落成式（昭和10年12月）

記念碑の人目に付く場所への移転を東大病院へ請願してまいりました。今回その努力が実り、記念事業の一環として東大附属病院の入院棟玄関前の、緑の一角に移転されました。移転場所の近くには、森鷗外作品『雁』の舞台となる、文京区本郷の有名な無縁坂があります。藤棚の前の植え込みに移転された記念碑は、緑の多い一角の好位置で、玄関前の人通りが多い人目に付く陽の当たる場所となり、永井東大前病院長と病院当局の英断に、感謝する次第です。

さらに平成十八年には、知安没後百年を迎えましたので、記念碑移転は重ねての慶事となりました。幕末・維新时期に活躍した郷土佐賀出身の先達で、東京大学構内に顕彰碑が存在するのは、相良知安のみです。



移転された記念碑と筆者（平成19年6月）

東大医学部の基礎を創った相良知安は、現代医学の発展を静かに見守っています。

会員の皆様も、上京された際には、是非東大の相良知安記念碑を見学していただければ幸いです。

郷土佐賀から知安のような強い信念を持った人物を輩出したことに、筆者は誇りに思います。同時に知安の業績を広く県内外へ伝えていくことが、子孫としての筆者の使命であると思います。

(所屬) 佐賀県白石町立六角小学校

例会記録

日本医史学会・神奈川地方会九月合同例会

平成十九年九月二十九日(土)

鶴見大学歯学部三号館二階三—四講堂

杉田暉道

一、忍性の社会的医療活動

二、明治期の精神科看護の姿勢

〔四冊の看護書から〕

澤田恵子

平成十九年十月例会

平成十九年十月二十七日(土)

順天堂大学医学部十号館二階二〇二号室

一、江戸時代における鍼灸医学

―その思想の沿革―

ヴィグル・マティアス

二、貝原益軒未公開『用薬日記』の養生処方 山崎光夫

平成十九年十一月例会 平成十九年十一月二十四日(土)

順天堂大学医学部九号館二階八番教室

一、風土病マラリアとの闘い

―第二次大戦後の滋賀県彦根市―

田中誠二

二、日本における看護継続教育の推移とその特質

高橋みや子

日本医史学会・日本薬史学会・日本獣医史学会・日本歯科医学史学会・日本看護歴史学会 十二月合同例会

平成十九年十二月八日(土)

順天堂大学医学部九号館二階八番教室

一、明治二十八年に翻訳出版されたピルロートの看護書について 平尾真智子

二、薬事衛生の歴史の変遷と薬学教育六年制改革の開始

宮本法子

三、猫エイズ(FIV)の歴史

石田卓夫

四、歯科治療と麻酔の歴史―絵画を中心に―

別部智司

五、魯迅が「藤野先生」に書かなかったこと

坂井建雄